

平成30年度 小平市立 上宿小学校 学校評価報告書

学校教育目標

◎やさしい子(豊かな人間性) かしこい子(確かな学力) がんばる子(たくましさ) じょうぶな子(健康・体力)

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ・生きる力を育み、人間の健全なる成長を促す場 ・小学校はその基礎・基本を身に付ける場 ・自分の「居場所」を共に創り合い、共尊感情を高める学校づくりを行う。
- 【目指す児童・生徒像】 ・逆境にも負けない強たくましい子 ・相手の立場を考え、心を通わせ、互いに支え合う子 ・よく考え、意欲的に学習に取り組む子
- 【目指す教師像】 ・児童の自立を重んじ、愛情をもちながら、心のかもった指導ができる教師 ・わかる楽しい授業を目指し、授業を通して児童・保護者の信頼を得るということを認識し、絶えず授業の工夫・改善に努める

前年度までの学校経営上の成果と課題

研究で取り組んだ共尊感情の取り組みが実を結び、児童や教師の自尊感情や他尊感情が高まり、学校の中に認め合う雰囲気やいじめゼロの良い循環を生み出すことができた。今年度からは、次期学習指導要領への移行期に入るので、共通理解を図り、外国語なども含めてしっかりと対応していくことが課題である。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
次期学習指導要領に対応した取組	次期学習指導要領の主旨を理解し、実践させるため、プチ研修で定着を図り、主任教諭による模範授業を行い、教員が相互に見合う授業も計画する。	2	3	・プチ研修で学んだことを授業に取り入れることができた。今後もこの取り組みを継続していきたい。 ・全てのプチ研修を次期学習指導要領に対応するところまではいかなかった。 ・模範授業の開催がなかった。	3	3	・校舎の階段に英単語が掲示されていて、児童が日常から英語にふれることができるのがよい。 ・校内研究で取り組んでいることもあり、全学年が外国語及び外国語活動の学習に取り組んでいて、コミュニケーション力に成果が見られていることがよい。	○全教員が学習指導要領の改訂を意識して授業実践に取り組むことができていた。また、プチ研修会も今年から再開し、教員の自己啓発につながったこともとても良かった。次年度以降は、校内で模範授業等を見せ合い、指導力の向上に努めていきたい。 ○校内研究で外国語を取り上げたことで、外国語の進め方を研究する場が確保されていて良かった。そのことが、日々の授業実践にもつながり、児童も楽しそうに取り組むことができていた。次年度以降も、研究を続けていき、さらなるスキルアップを目指したい。
	外国語におけるコミュニケーション能力を高めるために、校内研究のテーマに位置付け、研修会を4回開き、研究授業を3回行う。	3	3	・学年で授業を見せ合ったり、研究に取り組んだりできた。今後も継続していきたい。 ・1年目として、これからの研究の方向性が見えて良かった。 ・外国語が楽しいと答えた児童が9割以上いるのはとても良いことである。	3	3	・昔のように居残り学習ということができにくくなっている中で、「ぐんぐんタイム」の成果が出ていることはよい。「ぐんぐんタイム」にボランティアを活用することで、もっと成果を期待できると思う。	○今年から始めた「ぐんぐんタイム」は一定の成果が得られた。ただ、底上げのためには、更に個別指導の時間を確保する必要がある。また、授業展開を工夫するためにも、教材分析・研究などの授業準備の時間を確保できるよう努力する。 ○東京ベーシックドリルの取組については、水曜日の朝学習を中心に学習の進め方が浸透してきた。次年度からは、モジュールに移行するので、つまづきや課題の多い児童に対する対策を考えながら、個別指導をしっかりと行い、学力格差の一層の縮小に努める。
学力向上	きめ細かい教材分析・研究に取り組む、授業の学習展開を工夫する。	3	3	・あゆみで「もう少し」に当たる児童の底上げが課題である。今年から始まった「ぐんぐんタイム」を充実させ、個別指導の時間を確保する。 ・学習中の単元テストなどはできているが、出題範囲が広くなる得点が低くなることからなかなか定着できていないことがうかがえる。事後の家庭学習などを充実させていきたい。	3	3	・水曜日の朝に黙々と自分の課題に取り組む児童が多い。 ・ベーシックドリルがない1年生もドリルなどを使い、計算の反復練習をしたことで、学力の向上につながった。 ・算数の時間にペア学習を取り入れたり、個別指導を充実させたことにより、学力の底上げにつながった。	○学校全体では、あいさつ運動などを通して、児童の意識を高めることができた。しかし、依然あいさつをなかなか返すことができない児童も多い。廊下ですれ違った時などに、教員から積極的に「こんにちは」と挨拶するなど、お手本を示しながら意識を変えていきたい。
	最低週に1回東京ベーシックドリルを活用し、習熟度別指導の時間や個別指導の時間をとり、積極的に学力向上を図る。	3	3	・あいさつができていない児童が以前多い。教師がお手本を示して意識を変えていくと良い。 ・昨年度、校内研究の取り組みで行った帰りの会のキラキラタイムを継続し、互いを褒め合うこと、子どもの良さを伝えることを日常的に行ったのが良かった。	3	3	・昨年度から共尊感情を高める取組とリンクさせる形でいじめや不登校についても解消を図ってきた。1月末現在、いじめの認知はない。今後も日常的に道徳や学級指導の時間等を活用して、心情面を豊かに耕す活動を随所に取り入れ、いじめ・不登校ゼロを目指していく。	
健全育成	「あいさつ運動」や「ほめほめタイム」などを行い、あったか言葉を増やす取組をする。	3	3	・不登校の児童は0人。いじめの認知は3人。 ・6、11月のふれあい月間の道徳の時間などに全クラスでいじめをテーマにした授業を行った。いじめ0に向かう姿勢をしっかりと示す。 ・授業規律を全校で揃えようという指導ができ、児童にも浸透しやすいと思う。	3	3	・「楽しみながら運動プログラム」については、体育主任から遊びの提案などがされ、少しずつ共通認識が図られてきた。既存の持久走週間や縄跳びカードなども生かしながら、児童への働きかけを進めていくようにする。	
	学年・学級のルールを定着させ、いじめ・不登校の発生を防ぐために、未然予防の取組を行う。	3	3	・教科外の学習や委員会等でも取り扱っていくとよい。 ・今年、ラジオ体操の指導で講師を招いたように、外部人材を積極的に活用していく。 ・総合的な学習の時間や道徳授業地区公開講座等で国際理解(カンボジア王国の学習)に取り組んだ。	3	3	○2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、4つのテーマと4つのアクションをもとに取組を進めていく。体力の向上はもとより、国際理解をはじめとする各学習にも力を入れる。学校全体で方向性の確認を図りながら、重点的に育成すべき5つの資質・能力の育成を図る。	
体力向上	「楽しみながら運動プログラム」による運動の日常化や「挑戦カード」の活用(年間)を図る。	2	3	・休み時間や体育の時間に「楽しみながら運動プログラム」を行って体力の向上に努めることができた。 ・各クラス学期中に1回は取り入れられるように、体育の指導計画を工夫していく必要がある。	2	3	・中学校との連携について、評価が低いのが、地域の学校は、私立中学校や都立高校、大学もあることで、そういうところとの連携も考えられる。	
	オリンピック・パラリンピックについての理解を深め、生涯にわたる体力向上への意欲化を図るための授業を実施する。	3	2	・昔遊びや農園活動、ガインヘルプ体験等で地域の教育力を生かすことができた。地域に出かけるときの補助は大変ありがたい。 ・外部のゲストティーチャーとは連携することができた。更に、地域の人材を開拓していき、中学校の職業体験などにつないでいく。	3	3	○今年度は、中学校との相互連携を行うことができなかった。次年度以降は、小中連携の日などに、学力向上分科会の話し合いで中学校の先生に話題提示し、実現に向けて推進していくよう、可能性を探っていく。	
地域に根ざした教育	保護者や地域の教育力を活かした教育活動を展開する。(各学年年間3回以上)	3	3	・中学校の英語科と連携をどのように図るのかや誰がそれを担っていくのかを明確にしていく必要がある。 ・小中連携の取り組みとして、外国語(英語)に限らず、次期学習指導要領の勉強会を行うなど交流を深めていきたい。 ・中学校、高校と関わり合いをもつ機会が設定しづらかった。	3	3		
	外国語の学習を中心に、中学校授業参観への参加を促進する。中学校からの講師(授業補助者)を依頼し、外国語の学習を行う。	1	1		1	1		